

## 古莊大策

紀古家に生まれ、同族古莊玄洞の家を嗣いだ。日出藩儒米良東嶠に学び、学徳俊秀にして、明治初頭以来近郷に於いて、屈指の偉材と称された。明治五年、二十七歳で第九十九区郷村社掌を拝命した。同七年五等郵便取扱役を拝命、龍王村外十数か村の戸長を県から命じられた。明治十二年県会制実施の当初県会議員に当選したが辞退して養蚕、絹織物などの勸業に専念した。のち龍王村外七村の登記事務の委嘱を国から拝命した。明治十八年から数回にわたって龍王村村会議員に推され、明治二十二年初代龍王村長、明治三十六年郡会議員として地方行政に貢献した。大正十年七十歳で没している。(弘化二年六月生)

大策の長男満太郎は一年志願兵で陸軍歩兵少尉に任官し、日清・日露両戦役に出陣し、日露戦役では朝鮮守備隊中隊長として中尉に昇進した。敵のコサック騎兵の奇襲を見事に撃退し武勲をたてて功五級金鷄勲章を得ている。大正四年郡会議員に当選して郡政に参与したが、壮年期に他界した。

大策の妹婿、紀古箋蔵は大策のあとをつぎ二代目の郵便局長となり、草創の郵便行政に尽瘁した。その子の時代に郵便局は下市に移転し、登記所も同じコースをたどった。

(安心院町誌 昭和四十五年発行より)

## 古莊大策翁碑文

宇佐郡安心院村人高木又市奇書於予、致其隣邑龍王村之人古莊大策翁事蹟、請曰古莊翁夙種徳於邑民仰慕村民之所也、頃者肯謀將建碑刻文、此傳不朽致、救介予而翁略狀以諸氏之志也、有以成之按翁名大策、本姓紀古、翁正甫十七、考諱仙之助君洗、紀古與古莊並爲邑著姓、時古莊氏絶無後、翁因冒焉、別使人贅其妹嗣紀古氏、明治七年命鳥越戸長、十二年爲議會銀固辞不就十七年爲龍王村十三ヶ村戸長、尋龍王村外七ヶ村登記官、二十一年町村制之設、舉爲龍王村長在職五年自免、後復舉村長、無幾復地自免、翁爲人忠厚平生存心愛物有來謀事者、爲講其方委曲、周悉期於必得未嘗以難人人名滿其意戸所欲而去、傍近郷里悉鬪争訟、往々諸翁居閑輒解其徳有次、孚於平日也、郡中推爲鉅人長者人無問言翁、今年卒有世先是讓家其長子滿太郎而老、有翁略此人或惜翁不以功業著稱一世、益淺之乎知翁也、予聞翁天資○澹、不近聲利、若○○焉不然似翁之徳之才使少有志功業也、既久也矣、施行而頑有所不屑焉爾子與氏四、居仁由義大人之事備矣、予於是益有以服翁爲人也、顧予文辭淺○何足似傳翁、○然小小奉教君子矣、君子成人之美、樂道人之善故不辭而爲之、明治四十三年、岡田恒述